

学位審査結果報告書

学位申請者氏名 板家 朗
学位論文題目 どのようにして研修歯科医は主体的な診療実践ができるようになるのか

審査委員（主査） 栗野 秀慈



（副査） 角館 直樹



（副査） 岩崎 正則



学位審査結果の要旨

研修歯科医は一人の歯科医師として、指導者の下で自らの判断と責任において歯科医療を実施することが求められているが、研修医が主体的に診療するようになる具体的な経験や成長のプロセスは明らかになっていない。そのため本研究では、研修歯科医が自らの判断と責任において主体的に診療に参加するようになる成長のプロセスを明らかにすること目的に質的研究を行っている。

対象者は研修開始から8か月以上経過した16名の研修歯科医で、臨床研修中の成長について半構造化インタビューを行い、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いて分析を行った。

分析の結果から、研修歯科医の成長プロセスは①指示通りの診療、②能力の認識、③主体的な診療の3つにカテゴリー分類することができ、「研修歯科医は診療に対して不安を抱いており、指示通りの診療をしていた。その後診療した経験を振り返ることや指導医からの助言を通して診療の方法が確立し、自己の能力の理解が進んだ。そして余裕が生まれ視野が広がり、1歯だけでなく1口腔の診療を考えるようになることで主体的に診療に参加できるようになった。」というストーリーラインが明らかになった。したがって本研究により研修歯科医が主体的に診療するようになるまでに教育者は診療の現場で研修歯科医が個々の問題の解決を促す足場や支援を提供する必要性が明らかとなった。

本研究は質的研究手法を用いている点で新たな知見を示す結果となり、臨床教育における学習プロセスに有用な示唆を含むものであった。また公開審査においても質疑応答にもなんら問題がなく、本審査委員会は本論文を学位論文として価値あるものと判断をした。